

京 上京探訪

～語り部と歩く1200年～



世界に誇る織のまち、西陣の地に織り成す悠久のドラマ ～安倍晴明、紫式部から桂昌院、近代まで～

「ガチャン、ガチャン」と織り機の音が鳴り響く、世界に誇る織のまち・西陣。平安遷都より1200余年、権力者、権威者、匠、町衆が絶えることなく、雅な文化を織り成してきました。安倍晴明が、紫式部が、牛若丸が、観阿弥・世阿弥が、豊臣秀吉が、千利休が、大奥・桂昌院が、時代の寵児たちが彩る、百花繚乱極彩色の西陣絵巻を辿ります。

①今宮祭「葵餅」

今宮祭は、正暦5年(994)に疫病鎮撫を願い船岡山で営まれた御霊会を起源とし、日本紀略には朝廷より「神輿とともに刺鉾をご寄付あいな候」と記されています。ここ西陣の地に誕生した徳川五代将軍綱吉の生母・桂昌院は、西陣の隆盛や今宮神社再興に努め、葵餅はじめ四基の刺鉾を寄贈しました。桂昌院の幼名を「お玉」とい、西陣の八百屋に生まれ、輿に乗って江戸へ、「玉の輿」の語源ともいわれています。後に將軍の生母として大奥で権勢をふるい、従一位まで昇り詰めました。現在、葵餅は神社に戻されています。

②山名宗全邸宅跡

応仁文明の乱(1467～1477)において、西の陣総大将・宗全入道山名持豊の邸宅がここにありました。山名町の町名はこれに由来しています。戦火が治まると、堺へ難を逃れていた織り職人たちがこの地へ戻り、機織りを再開します。以降の地で織られる先染めの織物を、西陣織と呼ぶようになりました。

③舟橋

堀川に架かっていた橋です。堀川が氾濫したとき舟を架いて橋にした、橋の西町に堂上舟橋家の屋敷があった、など由来には諸説あります。京町鑑には、この地に高師直の屋敷があり、泉殿の下に舟橋を浮かべて結構を尽したことが地名になったとあります。周辺には北舟橋町、南舟橋町、西舟橋町の町名が残ります。

④観世稲荷社・観世井

大和猿楽四座の一、結崎座の太夫だった三郎清次とその子・元清は、足利三代將軍義満から観阿弥、世阿弥の称号とともに当地を拝領、能楽観世流の宗家を構えました。享保15年(1730)の西陣焼けて屋敷は焼失、観世家鎮守のお社と井が残りました。当地周辺を観世町といいます。

⑤紋屋町

応仁文明の乱が終息すると、綴織物職人たちは大倉人座を結成します。永正10年(1513)の下旬により京都での編織物の生産を独占、元龜2年(1571)には大倉人座31家のうち6家が、宮廷装束を製する御寮織物司に任じられました。このうち3家が当時に居を構え、その後の西陣織機業の中心的役割を担います。当町は元來東の方袋町で「聖天の辻子町」と称しましたが、御寮織物司の一人、紋屋・井関七右衛門宗隣が大宮通御所の屋敷を購入、辻子を突抜させます。このことが踏えられて「紋屋辻子町」、後に「紋屋町」と称されるようになりました。

⑥兩宝院

弘仁12年(821)、嵯峨天皇の病氣平癒を弘法大師空海が祈願し、六臂の歡喜天(聖天)を安置した大聖歡喜寺が始まりとされています。境内に西陣五水の一「梁殿井」が残っています。本尊は等身大の象頭人身、男体が単身の大聖歡喜天像で、秘仏中の秘仏で誰も見ることができないとされています。何故単身だと分かったのでしょうか。

⑦本隆寺

法華宗真門流の總本山です。長享2年(1488)六角西洞院に草庵を営んだことに始まり、天正12年(1584)に豊臣秀吉の都市改造により、現在地に移されました。室町後期には洛中法華と称されるほど隆盛を極めた、法華二十一ヶ寺本山の一つです。西陣焼け(1730)や天明の大火(1788)にも本堂が焼け残ったので、「焼けすの寺」の異名があります。本堂前に西陣五水の一「千代野井」があります。

⑧桜井公園・首途八幡宮

平安末期、奥州商人金赤吉次の邸宅が当地にありました。承安4年(1174)、牛若丸はこの八幡宮で旅の安全を祈願、吉次に連れられて奥州へ旅立ちました。「首途」とは中国語で「出発」の意味。この由緒より首途八幡宮と称されます。桜井公園の地は、室町期、連歌師桜井基佐の屋敷があり、西陣五水の一「桜井」があったとされています。

⑨千両ヶ辻

江戸時代、西陣織機業は隆盛を極め、一日に千両もの商いがあったことから、この名がつけました。少し北の大宮絹や五辻絹と呼ばれる高級糸糸を商っていた大宮五辻だとする説もあります。

⑩聚楽第北ノ丸北堀跡段差

聚楽第は、天正15年(1587)に完成した豊臣秀吉の政庁兼邸宅です。わずか8年後に破却されました。周辺には上杉弾正景勝や黒田如水など多くの武家屋敷が並び、「彈正町」「如水町」など町名として名をとどめています。

⑪一条大宮

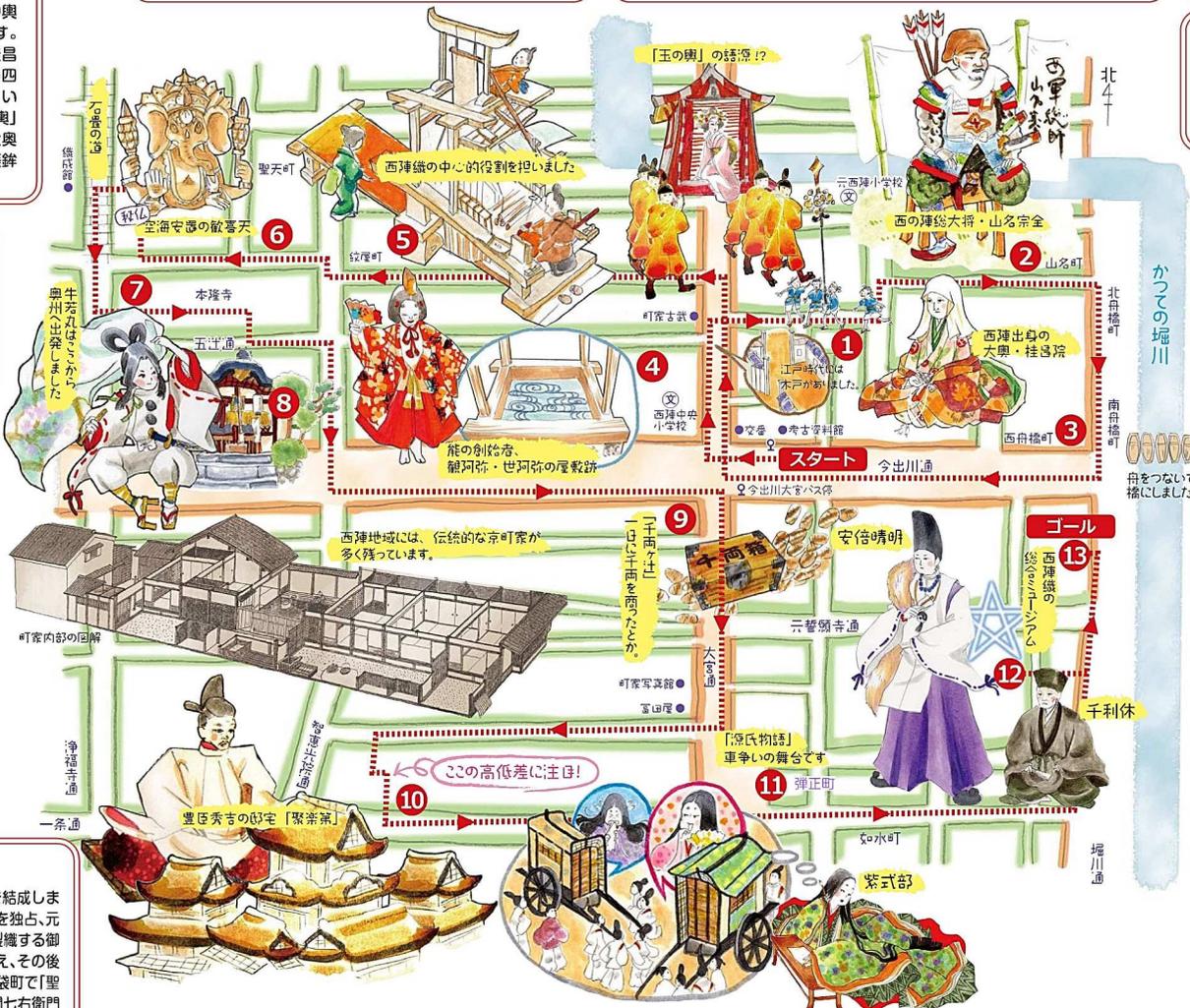
弘仁元年(810)から建暦2年(1212)までの約400年間続いた、賀茂祭(現在の葵祭)の斎王列は、斎王の御所である賀茂斎院(大宮上御霊前あたり)を出御して大宮通を南下、北上してきた勅使の行列と一条大宮で合流し、一条大路を東へ進み下賀茂・上賀茂神社に向かいました。この斎王列見物の雑踏の光景を舞台上、葵の上と六条御息所の御車が物見所を巡って「車争い」を演じた様子が、源氏物語葵の帖に描かれています。西陣及び隣接の地は、源氏物語の舞台として数多く登場しています。

⑫晴明神社・千利休屋敷跡

平安期の天文博士、陰陽師の安倍晴明を祀ります。晴明の邸宅跡とされますが、今昔物語集巻24には「土御門大路(現在のの上長者町通)から北、西洞院大路(現在の西洞院通)から東」と記されています。その後安土桃山期、当地に千利休の屋敷がありました。利休が最期の一日に用いた水は、境内の「晴明井」といわれています。

⑬西陣織会館

手織り体験や、明治初期に織り機の技術革新に成功した様子を観ることができる、西陣織の総合ミュージアムです。かつてこの地付近は村雲と呼ばれ、14世紀初頭に大林寺が創建されましたが、応仁文明の乱で焼失。後に、豊臣秀次追悼のため瑞竜院が瑞竜寺を創建、宮家や摂関家からの入寺があったため村雲御所と呼ばれました。瑞竜寺は昭和38年(1963)に移転。跡地に当会館、西陣産業会館、住宅公園団地が建てられました。



スタート地点の最寄りバス停…「今出川大宮」地下鉄「今出川駅」下車、「角今出川」から市バス「51・59・102・201・203系統」

【注意事項】このマップは、まち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を履いてください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【主催】京都市上京区役所 【共催】まいまい京都 <http://www.maimai-kyoto.jp/> 【発行】京都市上京区役所庶務課 京都市印刷物 第224673号 【お問い合わせ】京都市上京区役所庶務課 電話:075-441-5029

